

# 飛翔な日々

飛翔編集員の日常をつぶやく気ままなコーナー

「8月10日」

8月10日。それは私が大学生になって初めての夏休みの初日である。その1日について語ろう。

朝、いつも通りの時間に起きて向かったのは広島大学である。総科のフェロー達と学祭について話し合った。大学祭も、いいものにした。

それから向かったのは、とある公園である。そこでは新歓班のメンバーの一部で花火、すいか割りをした。本当はしてはいけない場所だったのであまり大声では言えないが、花火を昼にやるのは斬新なものだった。花火は夜に行くことをおすすめする。それらを終えた後、先輩のお宅でそうめんなどをいただいた。すいかにそうめん…まさに夏を満喫した。ずっと前から心待ちにしていたこともあり、あつという間に時間が過ぎた。

この解散時間が思っていたより早かったので、その後の前期班の集まりに参加することができた。この日がちょうど誕生日だった班のメンバーを直接お祝いできてよかった。班のみんなとはバイトや自動車学校の話で盛り上がった。バイトもせず自動車学校にも通っていない私はただ話を聞いているだけで精一杯だった。

そして最後に向かったのは、西条駅である。そこに私のかつての

受験時代の苦楽、いや、苦を共にした友人が遠方へ来る来てくれたのである。お好み焼きを食べながら、互いの大学生活について語り合った。いい刺激になった。ところが話している時に、友人から「訛っているというか、関西弁が抜けている」と言われ、少し複雑な気持ちになった。

そうしてしばらくの別れを告げ、私は自宅に向かった。西条駅からひとり自転車で帰宅するのは初めてだった。予定が二転三転したが、最高の形で1日を過ごせたと思う。下見街道でふと見上げた夜空の星はいつもよりキラキラして見える気がした。

(28生 上原由実子)

## 「グッズホより普通にラッセンが好き」

皆さんは自分の地元のゆるキャラをご存知だろうか？例えば、広島市では西条町の民話をモチーフにした愛らしい風貌のタヌキ「のん太」がそれである。しかし、このゆるキャラたち、ゆるい見た目とは裏腹に（全くゆるくない見た目のものもいるが）シビアな現実と闘っているらしい。

人気が出れば地元PRやグッズ化などに繋がり大きな経済効果を見込めるとあってか、年々その数を増やしているゆるキャラたち。しかし、その中には人気や知名度が低いキャラも多く存在する。そういうゆるキャラたちを苦しめるのはお金の問題である。当然ゆるキャラにはその人気の高低に拘わらず作成費がかかり、その費用

は1キャラクターあたり平均60万円ほどだという。他にもイベント出張費や中の人の人件費などなど、決してゆるくない出費が待っている。人気がないと還元されるものが少なく、「予算の無駄遣い」と非難され、いつの間にか姿を消すゆるキャラも少なくない。

今や熊本県の「くまモン」を知らない人はほとんどいないだろう。しかしこの人気が多くゆるキャラたちの犠牲の上で成り立っていることを知る人は少ない。実は熊本県には10以上のゆるキャラがいたのだが、くまモンのデビュー後にほぼ一本化されて消えてしまったのだ。人気の分散を防ぐために他を切り捨てることは珍しくないらしいが、この話を知って以来、なんだか彼の無機質な目が恐ろしくなってきた…。

さて。ここまでゆるキャラのゆるくない現実を綴ってきたが、続いて、友人とゆるキャラを調べた際に見つけて個人的にツボった或るゆるキャラを紹介したい(むしろこちらが本命の話)。どのくらいツボったのかというと、今年の7月によく始めたツイッターでそのキャラのアカウントをフォローし(フォロバされた)、キャラの画像を自分のホームのヘッダーにしようというくらいツボった。そのゆるキャラとは、三重県名張市の「ひやわん」である。実は、能面モデルにしたという顔があつた芸能人にそっくりなのだ。気になった方は調べてみて欲しい。分からないという方のためにヒントを。

——タイトルル。

(28生 石松雄我)

## 「頭がいい人」になりたい」

大学生になってからは、高校までとは違うコミュニティの中で過ごし、今までに会ったことのないタイプの人と話したりする機会も増えた。そんな中で、「ああ、この人は頭がいいんだな」と思う人にとまどき出会う。きっと誰もがこのような思いをしたことがあるだろうし、その人に対して憧れを抱くことだろう。私も、頭がいい人だと思われたい。そこで今回、飛翔な日々の記事を書くことで、どうやったら頭がよくなれるのか考えてみた。待てよ、まず「頭がいい」ってどういうことなのだろう。「脳がいい」ということなのか？辞書で調べてみたところ、【頭】という言葉自体に脳の働きや思考力という意味も含まれるらしい。やはり、「頭がいい」＝「脳の働きがいい」ということなのだろうか。そうだとすると、テストで高い点数をとる人は必ずしも「頭のいい人」ではなくなる。脳の中身が問題なのだ。そうすると、「頭がいい」かどうかはだいぶ先天的に決まってしまうように思う。だとしたら私は頭のいい人になれない。ではどうしたらいいのだろうか。やはり、できないことをできるようにするために「考える」しかない。これは私が10年間バドミントンをやってきて学んだことだ。いつもコーチに言われていた言葉でもある。どうやったら狙ったコースに打てるのか考える、どうやったら相手に勝てるのか考える…。そうしていると強くなれる、とコーチは言っていた。頭がよくなるためにはどうしたらいいのか考える…。とりあえず今の私は、『考える人』である。ちゃんと「頭がいい人」になれていたら、誰か教えてほしい。

(28生 小野晴香)

「絶賛募集中」

私の友達のIさんは飢えている。食料にはない、恋愛にだ。彼女には恋人がいない。なぜであるかを独断と偏見で考えてみた結果、理想が高いというのが主要因であるとわかった。

彼女が男性に何を求めるのかを聞いてみた。以下、彼女の回答である。

「恋人に求める条件としては、容姿の端麗さ、清潔さ、全体のバランスですかね。あとやっぱりさ、似合う似合わないがあると思うんだよね、髪色もそうだし、服のテイストもそうだよ、むやみやたらに髪染めたり、こうテキトーな決断が自分自身に悪影響を及ぼすことを覚えていてほしい。何が今の自分に似合うか、そして今の自分の置かれた状況にふさわしいかがわかる人じゃないとダメ。だからテキトーにするんじゃないかって自分自身を大切にしてほしい。あと余裕のある人がいいよね、なんかこう、自分のことに余裕がある人は他の人にも優しくできるよね、まあつまり、余裕があって思いやりのある人は優しいよね。優しさって人が求める最上級のいい条件だから、（以下略）」

まあ、こうした事態である。しかもその上内面の条件だけではなく、少しゴリみのある筋肉も必要らしいから困ってしまう。ていうかゴリみって何だ。

そんな彼女ではあるが、とても素直で良い子である。少し妄想するだけでキヤーキヤー言って騒ぐ可愛い子である。これを読んでいるあなたの方の中で、我こそはIさんの恋人に！という人がいれば、ぜひこちらまで取り急ぎ連絡をお願いしたい。Iさんをはじめ、恋愛に飢えるすべての人が幸せを手にすることを願って飛翔な日々とする。

(28生 和田恵里佳)

